S57-4 「改訂実務実習の円滑な実施に向けて—改善と対応のロードマップ」

平田 收正（阪大院薬）

薬学教育モデル・コアカリキュラムは平成 25 年末に改訂され、それを受けて平成 27 年度から本カリキュラムに準拠した 6 年制薬学教育が開始される。薬学教育協議会・薬学教育調査・研究評価委員会では、平成 25 年度及び 26 年度に文部科学省「大学における医療人養成推進等委託事業」を受けて、6 年制薬学 教育の現状調査とその結果に基づく実務実習の課題と改善に向けた取り組みを行って来た。その一環として、平成 26 年 11 月に全国の薬系大学と日本病院薬剤師会、日本薬剤師会から 100 名近い参加者を得て、平成 31 年度から開始される改訂カリキュラムに沿った実務実習の在り方をテーマとして、「実務実習教育改善のための全国ワークショップ 2014」を開催した。本ワークショップでは、上記の調査結果や六者懇・薬学実務実習に関する連絡会議が作成した「薬学実務実習に関するガイドライン（案）」をもとに、大学と実習施設、大学間、施設間の連携、さらには調整機構を中心とする地区単位での実務実習の推進について、当該実務実習を実施する上での現状及び今後の課題の抽出と、その対応策の提言、さらに課題解決に向けたロードマップの作成を行った。本講演における本事業の紹介が、教育効果の高い実務実習の実現に向けた大学、実習施設さらに地域における新たな議論の契機となることを期待したい。

The pharmaceutical education models and core curricula were revised at the end of 2013. Based on the revised curricula, a new 6-year pharmaceutical education system will launch in FY 2015. Since FY 2013, the Council on Pharmaceutical Education and its Committee have been engaged in a survey to clarify the actual status of the 6-year pharmaceutical education system and its challenges and also in activities to improve it on the basis of the survey results as a Commissioned Project to promote professional medical training at universities. In November 2014, for example, the Advanced Workshop was held and joined by nearly 100 participants, with a focus on practical training programs based on the revised curricula scheduled to start in FY 2019. At the workshop, appropriate methods were examined so as to promote university-university, university-facility, and facility-facility collaborations and also promote community-based practical trainings led by coordinators, by clarifying the current status and challenges of such trainings and creating a road map toward solutions, based on the results of the above-mentioned survey and the Practical Pharmacist Training Guideline (draft) developed by a liaison conference for panel discussions and practical pharmacist training. This presentation will mainly report the details of the workshop to promote discussions on an educationally effective practical training for the pharmaceutical education.

Pharmaceutical education staffs should successfully start in 2019 the new pharmacy practice training defined in the revised model core curriculum. The Council on Pharmaceutical Education conducted a survey on the current status of the preparatory pharmaceutical education system carried out by university teaching staffs and the status of the pharmacy practice training provided by pharmacist trainers among universities, hospitals and pharmacies. We report the results of this survey. Based on the results, we provide discussing opportunities concerning “What should we prepare for the new pharmacy practice training?”

改訂実務実習の円滑な実施に向けて
―改善と対応のロードマップ―
～全国ワークショップSGDの結果まとめ～

薬学教育協議会
薬学教育調査・研究・評価委員会
平田　收正（大阪大学）

大学における医療人養成推進等委託事業（H25-26）

薬学教育の現状と課題に関する調査研究

【趣旨・目的】

・６年制薬学教育が法改正の趣旨・目的に照らして順調に進んでいるかについて評価を行い、今後の薬学教育の充実に活かす必要がある。

【実施事項】

① ６年制の薬学教育を修了した薬剤師やその薬剤師の受け入れ先（病院、薬局、企業等）から多様な意見を収集し、現状の薬学教育（大学教育及び実習）の成果、問題点の把握・分析を行う。

② 一定の質を確保できる実習先を選択できるようにするために、実習先の評価方法の確立に関する調査研究を行う。

大学における医療人養成推進等委託事業（H25-26）

薬学教育協議会薬学教育調査・研究・評価委員会

【平成２５年度】

① ６年制薬学教育の現状分析のためのアンケートを実施する。

【平成２６年度】

② 改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習に関する大学及び実習施設での準備状況６年制薬学教育の現状分析のためのアンケートを実施する。

③ 全国アドバンストワークショップにおいて、これらのアンケート結果に基づいて、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した均質で教育効果の高い実務実習を行うために大学及び実習施設が取り組むべき方策について議論し、提言としてまとめる。

大学における医療人養成推進等委託事業（H25-26）

現行のモデル・コアカリキュラム対応実務実習

“実習施設による実習内容の違い”

① 薬学６年制教育の現状分析

③ 全国アドバンストワークショップでのアンケート結果に基づく議論

② 改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習に対する大学・実習施設の準備状況の分析

薬学実務実習に関するガイドラインの作成

“均質で教育効果の高い実務実習内容の担保

改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習（平成31年度～）

対応策の提言

反映

対応策の提言

「Ｆ薬学臨床」の改訂のポイント

① 薬学教育と実務実習のカリキュラム一本化

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムは、実務実習（事前学習含む）の目標を含まない。

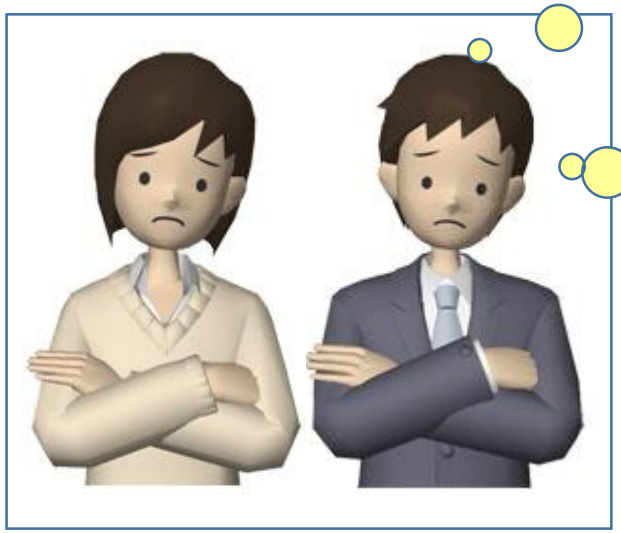
➡ 改訂モデル・コアカリキュラムでは、実務実習の目標を一緒に記載している。

② 大学教育・病院実習・薬局実習の連携

現行の実務実習モデル・コアカリキュラムは、実務事前学習（SBO 77）、病院実習（SBO 108）及び薬局実習（SBO 116）に分かれている。

➡ 改訂モデル・コアカリキュラムでは、これらが統合されている（SBO 176）。

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂



確かにSBOsの数は減ったけど、
内容的には変わらない？
かえって増えた？

病院実務実習と薬局実務実習
の順番、期間、内容は
どうなるの？

方略や評価はどうなるの？

薬学実務実習に関する連絡会議

➡ **新六者懇のもとに薬学実務実習に関する連絡会議を設置**

【目　的】

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習の在り方実施体制等の大枠や方針について、関係機関間の調整を図るとともに、各機関の役割や検討事項を明確化し、薬学実務実習の実施に向けて各機関の取組へと引き継ぐことを目的として、協議の場を設ける。

【検討事項】

（1）改訂コアカリに基づく薬学実務実習の在り方
（2）薬局実習と病院実習の区分、分担
（3）方略作成の必要性
（4）実習施設の確保
（5）その他、必要な事項

➡ **平成26年度に「薬学実務実習に関するガイドライン」を策定**

薬学実務実習に関するガイドライン

- 改訂コアカリに準拠した大学の臨床準備教育及び実務実習を適正に実施するための指針を示したもの。
- 「薬剤師として求められる基本的な資質」修得を目指し、実践的な臨床対応能力を身につける実習を提示している。
- 大学が主導的な役割を果たし、病院及び薬局と円滑に連携して、「薬学実務実習の在り方・目標」に述べる実習が実現されるよう、様々な工夫等を盛り込んでいる。
- 次世代を担う薬剤師を育成する責務が、大学と現職薬剤師双方にあることを充分理解して薬学臨床教育を行う。
- コアカリの目指す学習が適切に行われ目標が達成されているか、大学と実習施設双方で常に確認・評価していくことが必要。

「実務実習教育改善のための全国ワークショップ 2014」

・開催日時：平成26年11月５日（水）10:00～17:00
・開催場所：慶應義塾大学薬学部
・参 加 者：93名・2P10S（大学教員、病院薬剤師、薬局薬剤師）

【プログラム】

第１部「薬学実務実習における施設による実習内容の違いを解消するためには」

① 情報提供
「文部科学省委託事業によるアンケート調査の報告」

② 課題「問題点の整理（ＫＪ法）と対応策の提案」

第２部「改訂モデル・コアカリキュラムに沿った実務実習のあり方とは」

① 情報提供
「薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂：薬学臨床」

② 課題「教育効果の高い実務実習を行うために」
P1：大学と実習施設の連携
P2：実務実習の質の担保

第１部
「薬学実務実習における施設による実習内容の違いを解消するためには」

ＫＪ法による「施設による実習内容の違いの抽出と整理」

① 施設・指導薬剤師側に起因する実習内容の違い

- 施設の立地条件・規模の違い
- 施設の業務内容・機能・処方せん枚数・処方せんの種類の違い
- 施設（病院・薬局）で実施が難しいSBOsがある（在宅・OTC・薬局製剤・処方提案等）
- 施設の指導薬剤師数・人員数の違い（人員不足）
- 地域差（地区間・都市部と地方）
- 施設間の連携の有無
- 施設責任者・経営者の意識・考え方の違い
- 指導薬剤師の資質の違い
- 指導薬剤師の意識・モチベーションの違い
- 指導薬剤師に対するインセンティブの違い
- 指導薬剤師のモデル・コアカリキュラムに関する理解度の違い

第１部
「薬学実務実習における施設による実習内容の違いを解消するためには」

ＫＪ法による「施設による実習内容の違いの抽出と整理」

② 学生側に起因する実習内容の違い

・学力・能力の違い
・モチベーション・やる気の違い
・希望進路の違い

③ 大学・教員側に起因する実習内容の違い

・大学の学生指導方針の違い
・大学の連携体制・連携内容の違い
・教員の意識・モチベーションの違い
・教員の薬剤師経験の違い

④ 複合的な原因

・指導薬剤師と学生の相性
・施設と大学の連携の度合いの違い、連携不足
・地域における実習支援体制の違い・不整備（地区・ブロック単位）

第１部
「薬学実務実習における施設による実習内容の違いを解消するためには」

最も重要で早急に解決すべき課題の選択と対応策の策定

① 施設の規模・業務内容・機能・実習に対する考え方の違い（5G）

【対応策】

- モデルコア・カリキュラムの周知（学習目標の明確化）
- 施設間での実習内容・実施方法に関する情報の共有化
- 施設の規模・業務・機能等の調査による実施可能な実習内容の把握とそれに基づく配属決定
- 調整機構による実習状況の把握と改善要求の実施
- 教員と経験豊かな指導薬剤師による地域サポートの実施
- 地域単位でのグループ実習による地域内の実習内容の違いの是正
- 実務実習における成功事例の集約と公表
- 指導薬剤師の養成（人員不足の解消）
- 施設当たりの受入学生数の増加（１施設２名の枠の見直し）
- カリキュラムの改訂：医療現場での実習を重視

第１部
「薬学実務実習における施設による実習内容の違いを解消するためには」

最も重要で早急に解決すべき課題の選択と対応策の策定

② 指導薬剤師の資質の違い（２Ｇ）

【対応策】

・カリキュラムの見直し・カリキュラムの指導薬剤師への周知
・指導薬剤師のフォローアップ研修会の開催
・お互い良い点を学び、取り入れる
・指導薬剤師の負担軽減
・大学の事前学習への指導薬剤師の参加
・施設と大学の連携強化：実務実習記録などのツールの充実
・指導薬剤師と教員の交流・連携強化
・地域連携の強化
・大学・薬剤師会の共催によるアドバンストＷＳの開催
・薬学教育者ＷＳの内容の変更（指導方法を重視）

第１部
「薬学実務実習における施設による実習内容の違いを解消するためには」

最も重要で早急に解決すべき課題の選択と対応策の策定

③ 地域における実習支援体制の違い・不整備

【対応策】

- 一施設完結型を見直す（グループ実習）
- 指導薬剤師への支援：手当・時間・連携・情報提供
- 指導薬剤師間の情報交換：アドバンストＷＳの開催
- 先進的な取り組みの事例紹介

④ 大学・施設間の連携不足

【対応策】

- 大学教員の薬剤師の業務内容や臨床現場での在り方の理解
- 施設訪問の質・内容の充実
- Web版実習記録の充実や活用などによる施設との連携強化

⑤ 実施が困難なSBOsがある施設が受け入れを行っている

【対応策】

- 正確な実習施設概要の作成とそれに基づいた学生の配属
- 地域での施設間調整によるできないSBOsの補完（グループ実習）

第１部
「薬学実務実習における施設による実習内容の違いを解消するためには」

施設間の実習内容の違いを解消するための方策

１．施設の規模・業務・機能等の調査による実施可能な実習内容の把握とそれに基づく配属決定（地区調整機構・大学と施設の連携）

２．指導できない、あるいは十分に指導できないSBOsを補完するためのグループ実習の実施（一施設完結型実習の見直し）

３．実習受入人数の制限の見直し

４．アドバンストＷＳによる情報の交換・共有化

５．教育効果が高い実習指導の紹介

６．薬学教育者ＷＳの開催回数の増加（人員不足の解消）

７．薬学教育者ＷＳのプログラムの改訂（実践的な指導法の修得）

８．Web版実習記録の充実や活用などによる施設との連携強化

９．カリキュラムの見直し

改訂モデル・カリキュラム対応実務実習に向けた今後のスケジュール

２５年度 (2013年度)	**改訂モデル・コアカリキュラムの完成**	
２６年度 (2014年度)	各大学における カリキュラム改訂作業	円滑な実務実習に向けての検討 （薬学実務実習に関する連絡会議　等）
２７年度 (2015年度)	**新カリキュラムの適用** （１年次）	各大学、各団体、各実習施設での準備、試行、検証 実習施設の充実　等
２８年度 (2016年度)	（２年次）	
２９年度 (2017年度)	（３年次）	
３０年度 (2018年度)	（４年次） **改訂コアカリに基づく共用試験**	
３１年度 (2019年度)	（５年次）	**改訂コアカリに基づく実務実習**

第２部
「改訂モデル・コアカリキュラムに沿った実務実習のあり方とは」

P1：大学と実習施設の連携をどのように行うか

① モデル・コアカリキュラム改訂に対する対応

- 改訂モデル・コアカリキュラムとガイドラインの周知
- ガイドラインに沿った施設概要の把握と対応可能・不可能の実習項目、受入可能時期、受入可能人数の調査とそれに基づいたシミュレーションの実施（大学・地区調整機構）
- モデル実習プログラムの構築とパイロット的実習によるガイドラインへの適合性、教育効果の検証
- ガイドライン実施に向けた問題点の抽出と改善
- シミュレーションに基づいたモデル実習プログラムの段階的な普及
- ガイドラインの見直し

第２部
「改訂モデル・コアカリキュラムに沿った実務実習のあり方とは」

P1：大学と実習施設の連携をどのように行うか

② 大学と施設の連携の強化

・グループ実習体制の構築
・実習先指導薬剤師との人事交流・情報交換の積極的な実施
・「実務実習計画書」を活用した連携強化
・連携手段としてのWeb実務実習記録システムの活用
・実務実習記録システムの改訂と統一
・ふるさと実習の実施に向けた大学間連携・大学と施設との連携強化

③ 評価基準・評価方法の明確化

・ＯＢＥに基づいたパーフォーマンス評価の基準・方法の確立
・評価基準・評価方法の統一及び大学（ＦＤ）と実習施設（薬学教育者ＷＳやアドバンスストＷＳ）への周知・徹底

第２部
「改訂モデル・コアカリキュラムに沿った実務実習のあり方とは」

P2：大学・実習施設での実務実習の質をどのように担保するか

【大学の事前学習の評価】

・薬剤師の事前学習への参加と教育効果に関する評価
・第三者評価の実施

【病院・薬局での実務実習の評価】

・実務実習記録を活用した学習目標到達度の評価
・学生に対するアンケートや個人面接による実習内容の確認・検証
・実務実習後のアドバンストOSCE等による学習目標到達度の評価
・第三者評価の実施
・施設の実習内容の評価を行う機関、システムの構築

【評価結果をどのように活用するか】

・良い事例・悪い事例の共有、事例を参考にした実習内容の改善（大学と施設の連携）
・カリキュラム見直しへの反映

第２部
「改訂モデル・コアカリキュラムに沿った実務実習のあり方とは」

改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習に向けて

1) 施設に対する改訂モデル・コアカリキュラム対応の実務実習が実施できるかどうかの調査（実習内容・時期・期間・体制）

2) 調査結果に基づいた改訂モデル・コアカリキュラム対応の実務実習に関するシミュレーションの実施（地区単位）

3) モデル実務実習プログラムの策定

4) 実務実習内容の評価システムの構築

5) シミュレーション結果に基づく一部施設でのモデル実務実習プログラムのトライアルの実施

6) トライアル結果の検証とガイドラインの改訂

第２部
「改訂モデル・コアカリキュラムに沿った実務実習のあり方とは」

改訂モデル・コアカリキュラム対応実務実習に向けて

7) トライアルの拡大と結果の検証による地区対応型実務実習実施ガイドラインの作成

8) 改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習の実施

9) 教育効果の向上を図るための地区レベル及び全国レベルでのＰＤＣＡサイクルによる実務実習プログラムの検証と改善

ご清聴、

ありがとうございました。